

稚アユの 出荷始まる



出荷する稚アユをいけすからすくい上げる
スタッフ（けさ、日向市美々津町）

あゆの是則 約700万匹 日向市

日向市幸協の養殖業者「あゆの是則（このり）（是則由員社長）で、人工ふ化させた稚アユの出荷が始まった。来年2月中旬まで続き、出荷量は西日本屈指の約700万匹を見込んでいる。県内外で養殖用や放流用として使われるという。

同社は難しいとされ「国でも有数の業者として九州唯一。生産した稚アユは県内はもとより、九

州や四国各県ほか、和歌山県、三重県、長野県、静岡県など主に県外へ出荷される。

地下約40メートルからくみ上げた海水を利用し、耳川流域にある養殖場で稚アユを生産。成魚から採ったり、業者から取り寄せた卵を9月初旬にふ化させ、約60日間で重さ約0.4gまで育てた後、淡水の別の水槽に移し替え、約2週間かけて中間育成して重さ約0.7g、体長約5cmに育ったものを出荷する。

人工ふ化させた稚アユは天然より3カ月ほど早

イクルが早く、海産稚アユ漁の解禁前に市場へ安定出荷できるメリットがあるほか、天然資源の保

護の観点から需要は年々高まっているという。出荷は年末から年明けがピーク。きょうも早朝からスタッフは、専用の網で稚アユをいけすから次々とすくい上げ、熊本県から来た養殖業者のトラックの水槽へ移す作業

が繰り返された。是則社長（70）は「今年も生育は順調です。天然資源の保護に貢献しながら、皆さんから喜んでもらえる健康で良質な稚アユを生産していきたい」と話した。